や

や 屋。家(名)

や 谷(名)

や 矢。箭(名)

や 輻(名)

や 八(數)

や (後)

や (感)

喉音にして複母音の一つ。ちといあ二音の合して成りたるもの。

〔一〕いへ。●建物。〔二〕屋根。たに。

〔一〕武器又は獵具の名。矢竹に鳥の羽を矧ぎ下端に鏃を着け。弓に番へて射出だすもの。〔二〕木を引き割る時其割口に挾みて鋸の運動を自由ならしむるもの。車の軸と輪との間を支ふる木。

やつ。●はち。

〔一〕疑の詞。●推量の詞。○古今「君や來し我や行きけん思ほえず夢かうつゝか寢てか覺めてか」〔二〕問の詞。○「知るやいかに」「我をば思ふや」〔三〕反語。○「思ひきや」「せざるべけんや」

〔一〕驚き又は不意に心付きたる時の聲。●やあ。○謠「や。月こそ出でゝ候へ」〔二〕呼び掛くる聲。●やい。○宇治「や。おのれかくもありけるは」〔三〕文句の終に置きて感嘆の意をあらはす詞。●かな。○枕「面ぞ赤むや」謠曲「面白の有樣や」〔四〕文句の半に置きて感嘆の意をあらはす詞。○古今序「難波津に咲くやこの花」芭蕉「古池や蛙飛び込む水の音」〔五〕命令の詞に添へて用ふ。○「鳴けや鶯」「うたへやうたへ」〔六〕謠物の拍子に添ふる詞。○催馬樂「衣更せんやさきんだちや。我衣は野原篠原。萩の花ずりや。さきんだちや」

叱り付くる時などに呼び掛くる聲。○狂言「やいそこな奴」

やい

(感)

やいば 刃(名)

やいと 灸(名)

やいとう 灸に同じ。(隆信集)

やいん (名)

やいごめ 夜陰(名)

やら[ヤ]**う** 夜に同じ。●夜中。

やら[ヤ]**う** (名)

やら[ヤ]**うあたま** 屋廊(名)

やば 野郎(名)

野郎天窓(名)

矢場(名)

焼きて鍛へたる刀劍のは。●刀劍。

灸に同じ。

夜に同じ。

焼米に同じ。(空穗)

家の廊下。

〔一〕賤夫。●下男。〔二〕野郎あたま。

前髪の處を廣く剃りあけて髷を結びたる男の頭。

〔一〕弓射る場處。●弓場。〔二〕楊

やばい 弓店。

やはり 野梅(名) 野生の梅の樹。

やはん 矢張(副) そのまゝに。●他のものゝ如く。

やばん 夜半(名) 夜なか。

やばんらく 野蠻(名) 夷狄の境を脱せぬ事。●未開。

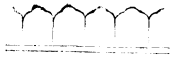
やはぎ 夜半樂(名) 雅樂の曲名。

やはず 矢矧(名) 矢を作る業とする人。

矢筈(名) 〔一〕矢の筈。凹形に作りで弓弦にかくる處〔二〕紋の名。矢羽の形したるもの。{圖}

やはずがしら 矢筈頭(名) 鎧の札の名。矢筈の先に似たる形のもの。{圖}

やはずもち 矢筈餅(名) 武家時代。祝ひの時に用ふる餅。矢筈の形に作りたるもの。



やに 脂(名) 木の皮より出づる粘液。又すべて之に似たる粘液。

やにはゥ 屋庭。家庭(名) 廣々と立ち續きたる人家。人里。(記)

やにはゥ 矢場(名) 矢を射る場處。

やにはゥに (副) 忽に。●立ざころに。

やほ 彌帆(名) 大船の舳の方に張る小さき帆。

やぼ 野暮(名) 情に疎き事。又は其人。

やほばしら 彌帆柱(名) 船にて彌帆を張るに用ふる柱。

やほち 夜發(名) 夜暦。●辻君。

やほたで 八穗蓼(名) 穗の多き蓼。(順集)

やほたでを 八穗蓼を(枕) 蓼の穗を積むと言ひ掛けたる穗積(姓)の枕詞。○萬葉「八穗蓼を穗積のあそが」

やど 宿(名) 〔一〕住む家。●屋敷。〔二〕我家。〔三〕旅にて宿る家。●旅宿。

やとひィ 雇(名) 雇ふ事。又は雇人。

やどり 宿(名) 〔一〕宿る事。又は其場所。〔二〕旅宿。●宿屋。

やどりうど 宿人(名) 宿りたる人。●泊り客。●寄留人。(雅)

やどりのつかさ 宿官(名) 古へ卑官より直に高官に任じがたき時。暫く假に國司などに任ずる其役。

やどりぎ 宿木(名) 他の木に寄生する木。

やどる　宿(他動四段)　假に他の家に行きて泊る。●假に他の場所を我場所の如くして居る。●孕まる〻。

やどおり　宿下(名)　下婢下男の私宅に下りて休息する事。●數入。

やどかり　寄居虫(名)　海産動物の名。形蟹に似て螺の殼を借りて住むもの。

やどふ　雇。傭(他動四段)　使役するために他人を抱へる。

やどや　宿屋(名)　旅人の宿泊を業とする家。●旅宿。●旅籠屋。●旅店。

やとこ　鋏(名)　金工の具。熱したる金屬を挾み持つ器。●やっとこ。●やっこばし。

やどさがり　宿下(名)　やどおりに同じ。

やどもり　宿守(名)　(一)主人の居ざる宿を守る事。又は其人。●留守番。(二)蝦蟇の異名。

やどす　宿(他動四段)　宿らする。●子を孕む。

やちよ　八千代(名)　無量の年數。

やちん　家賃(名)　家を貸して取る損料。●店賃。●家税。

やちくさ　八千草(名)　多くの草。

やちくさ　八千種(名)　多くの種類。

やちまた　八衢(名)　道の四方八方に分れたる處。●八辻。

やちゅう　夜中(名)　夜に同じ。●夜間。

やり　鎗。槍(名)　武器の名。鏃の大なる如き身に長き柄を附けたるもの。

やりはご　遣羽子(名)　追羽子に同じ。

やりど　遣戸(名)　閾の溝ありて横に引き明くるやうに作りたる戸。即ち現今普通の雨戸の類。……開戸に對していふ。

やりくる　遣繰(他動四段)　繰り廻す。●算段する。●都合する。

やりぶすま　鎗衾(名)　戰場にて鎗を一列に揃へ敵を待つ事。

やりみづ　遣水(名)　庭園に流しやる水。……古代寢殿作りの家には必ず之を設けたるもの。●泉。

やりじるし　鎗印(名)　槍に付けたる其持主の記章。

やりもち　鎗持(名)　武家にて主人の鎗を持ち供する下男。

やる　遣(他動四段)　向の方へ送る。●追ひ放つ。●つかはす。●行ふ。

やる　（他動四段）　破るに同じ。○新拾遺「身まかりける男の文を取り集めてやりすつとて」

やる　（自動下二段）　破るゝ。○神樂歌「笹分けば袖こそやれめ」

やるかたなし　（形。形狀言ク活）　心のやりどがない。●せんかたなし。

やるまいぞ　（句）　逃すまじの意。（狂言）

やるせなし　（形。形狀言ク活）　心のやりどがない。●氣の晴らしやうがない。

やほか　八百（數）　〔一〕はっぴゃく。〔二〕多くの數。

やほかによし　（枕）　八百は土の意。よしは助辭。土を杵にて築き固むると言掛けたる杵築（地名）の枕詞。

やをとめ　八乙女。八少女（名）　〔一〕神樂舞ふ役の八人の少女。〔二〕風俗歌の曲名。

やほがぢ　八百路（名）　多くの路。●處々方々からの道。……やほあひを見よ。

やほか　八百日（名）　〔一〕はっぴゃくにち。〔二〕多くの日數。

やほかよろづ　八百萬（數）　無量の數。

やほかよろづのかみ　八百萬神（名）　天地間に有りと有らゆる神々。

やほよね　八百米（枕）　多くの米を杵にて築くと言ひ掛けたる杵築（地名）の枕詞。

やをれ　（感）　目下の人など呼び出だす聲。○八犬傳「やをれ信乃待て」

やをら　（副）　しづかに。●そろりと。○源氏「姫君御硯をやをら引きよせて」

やほかや　八百屋（名）　野菜を賣る家。

やほへ　八百重（名）　多くの重なり。

やほかあひ　八百合（名）　物の諸方から來りて一つに出合ふ事。……潮流に云ふ。○祝詞式「荒潮の潮の八百路の八潮路の潮の八百合にます速秋津姫といふ神」

やおもて　矢面（名）　軍中にて矢の飛び來る針路。●矢の來る眞先。

やわ　夜話（名）　夜の間にする話。●よばなし。

やは　（後）　〔一〕文句の半に置きて疑または反語をあらはす詞。○枕「人やは見ぬと思ひて」〔二〕文句の終に置きて反語をあらはす詞。○「おもふべしやは」

やはか　（副）　いかでか。●どうして。

やはら (名) 柔術。

やはら (副) やはらに同じ。○宇治「やはら起きて」

やはらか 柔軟(名) 固く無き事。●おだやかなる事。△(形)—やはらかなる。(副)—やはらかに。

やはらかし 柔(形。形狀言ク活) 柔らかなる有樣。

やはらつつ (副) 少しづゝそろ〳〵と○源氏「やはらづゝ引き入り給ひぬるけしきなれば」

やはらぐ 和(自動四段) 柔らかになる。●和睦する。●平和に復する。●溫和になる。

やはらぐ 和(他動下二段) 柔らかにする。●和らがしむる。

やはらぐくに 和國(名) 和國の譯語。◎大和の國。すなはち我日本。(謠曲)

やはらぐひかり 和光(名) 和光の譯語。(謠曲)

やはらやはら (副) 柔らかに。●しなやかに。●やんわりと。○源氏「母君は唯いと若やかにおほどかにてやはらたをやぎ給へりし」(又)—やはらと。

やか 八日(名) 〔一〕八晝夜。〔二〕八日目。〔三〕月の第八番目の日。

やか 宅(名) 家。○源氏「やかの巽の隅の崩れいと危し」

やかた 屋形。館(名) 〔一〕舟車などの屋根。〔二〕貴族大名などの邸。〔三〕家。○「たびやかた」

やかたぶね 屋形船(名) 屋形の附きたる船。●屋根船。

やかつかみ 宅神(名) 家を守る神。○久安百首「柳葉に木綿しでかけてやかつ神祭る垣根にみゆる卯の花」

やから 族(名) 〔一〕一族。●親族。〔二〕輩。

やがら 矢柄(名) 矢に作る竹。

やかん 野干(名) 狐の異名。

やがく 夜學(名) 夜間にする學問。

やかまし (形。形狀言シク活) かまびすし。●さわがし。

やがて (副) 〔一〕其儘すぐに。〔二〕すぐに。〔三〕今に●おつつき。

やかぜ 矢風(名) 矢を射る爲めに生ずる風。○夫木「ともしすと秋の山へに入る人の弓の矢風に紅葉ちろなり」

やかず 宇(名) 家。(和名抄)

やかず 屋數(名) 家の數。●戸數。

やかず 矢數(名) 一人幾本と數を定めて多くの矢を射

る事。

やよ　(感)　呼び掛くる聲。

やよひ　彌生(名)　三月の古名。

やよろづ　八萬(數)　無量の數。

やよがりもそうよの　(句)　やよげにもそうよのの轉。◎いかにもそうじゃ。……足利時代に流行せし謠物の拍子詞。(謠曲。狂言)

やよや　(感)　呼び掛くる聲。○古今「やよや待て山時鳥ことづてん我世の中に住みわびぬとよ」

やよければ　(句)　いよ〳〵多ければ。○古今「老の數さへやよければ。身はいやしくて年高き。ことの苦しさ」

やたい　屋臺(名)　屋根の附きたる臺。

やたいみせ　屋臺店(名)　屋臺にて物を賣る路傍の店。

やだいじん　矢大臣(名)　神社の隨身門に置く隨身の稱へ。◎矢を負ひたる故の名。

やたかがみ　八咫鏡(名)　三種神器の一つ。

やたがらす　八咫烏(名)　神武天皇の東征の御時。熊野にて官軍を導き奉りし一種の烏。

やたら　(副)　妄に。◆無暗に。△(副)—やたらに(俗)

やたらづけ　(名)　種々の物を漬け交ぜたる漬物。

やたらびやビヨうし　夜多羅拍子(名)　雅樂の拍子の一種。時として拔頭などに用ふるもの。

やたのかがみ　八咫鏡(名)　やたかゞみに同じ。

やたけ　彌猛の意。◎心の勇みに勇む有樣。△(形)—やたけの。(副)—やたけに。

やたけ　矢竹(名)　矢に用ふる竹。

やたけごころ　(名)　彌猛心の意。◎勇みに勇む心。

やたて　矢立(名)　硯の一種。腰に挿みて携帶するやうに作りたるもの。◎昔し箙の中に入れて陣中に携へたるより起れる名。

やれ　(感)　嘆息の聲。

やれな　(感)　謠物の拍子に添ふる聲。○風俗歌「大鳥の羽根に霜ふれり。やれな霜ふれり。やれな。誰かさいふ。千鳥さいふ」

やれごろも　破衣(名)　破れたる衣。

やれめ　破目(名)　やぶれめ。

やそ　八十(數)　(一)はちじふ。(二)多くの數。

やぞ　(感)　やにがの添はりたる詞。○後撰「はかなくて同じ心になりにしを思ふがごとは思ふらんやぞ」

やそとものを　八十伴緒(名)　緒は借字。長(をさ)の略。○朝

廷に仕ふる多くの部屬の其各の長。（祝詞式）

やそち 八十（名） 八十歳の齡。

やそか （名） 八十機の意。◎多くの機。○萬葉「難波津に御船おろするやそか貫き今は漕ぎぬと妹に告げこそ」

やそがみ 八十神（名） 多くの神々（記）

やそうぢびと 八十氏人（名） 多くの氏の人。●其職々の人。●神に仕ふる多くの人。○萬葉「もの〻ふの八十氏人」

やそくま 八十隈（名） 多くの隈。●處々の曲り〳〵の隅々。（萬葉）

やそくさ 八十種（名） 多くの種類。

やそまがつび 八十禍津日（名） 神の名。禍津日に同じ。

やそけキヨ**う** 耶蘇教（名） 宗教の名。耶蘇基督を祖とするもの。●基督教。

やつ 八（名） 明治五年前の時刻の名。今の午前及び午後の二時にあたる。

やつ 奴（名） やっこの略。◎他を卑しみ罵りて言ふ詞。○竹取「かくや姫てふ大盜人のやつが」

やつ 谷（名） たに。

やつ 八（數） 四の二倍。●はち。

やつばち 八撥（名） 羯鼓の異名。

やっぱり 矢張（副） やはりに同じ。

やつはながた 八花形（名） 鏡の一種。八角の形になりたるもの。

やつばら 奴原（名） やつども。●奴輩。

やつぼ 矢坪（名） 矢の立つべき覘ひの場所。

やっと （副） やう〳〵の事で。●からうじて。（俗）

やっとこ 鋏（名） やとこに同じ。

やっとこばし 鋏箸（名） やとこに同じ。

やつる （自動下二段） 衰弱する。●姿裝などのわろくなる。●平時の有樣に比して物事の崩れ亂るゝ。

やつを 八峰（名） 多くの峰。○萬葉「足引の八つを踏み越え」

やつをのこと 八緒琴（名） 糸の多き琴。（東遊歌）

やつか 八束（名）（形） 物の丈の長き事。……つかを見よ。○「八束穗」「八束髯」

やつかほ 八束穗（名） 豐かに長く垂れ實のりたる稻穗。

やつかり　僕(代)　やつがれに同じ。

やつがれ　僕(代)　謙遜して自身を稱する詞。●ぼく。●私。

やつかひげ　八束髯(名)　長く胸までも垂れたる髯。

やつよ　(名)　八千代の詞。○萬葉「紫陽花の八重さくごとくやつよにをいませ我せこ見つゝ忍ばむ」

やつればむ　(自動四段)　やつれて見ゆる。(源氏)

やつむねづくり　八棟造(名)　建築にいふ詞。四方に二つづゝ破風を作りたる建物。おもに宮殿などに用ふ。

やつくち　八口(名)　裁縫にいふ詞。衣類の脇の明きたる處。

やつくり　屋作(名)　家を作る事。又その作り工合。

やつやつし　(形。形狀言シク活)　やつれたる有樣。●貧しき有樣。

やつま　屋妻(名)　屋根の端。○夫木「見わたせば葦かぬやづまもなかりけり淀野の沼に引ける菖蒲を」

やつこ　奴(名)　〔一〕君に仕ふる人。●臣。〔二〕下男。●奴僕。

やっこ　奴(名)　〔一〕下男。●奴僕。〔二〕奴豆腐。

やっこどうふ　奴豆腐(名)　食品の名。碁盤の目なりに切りたる豆腐。そのまゝに醬油をつけて食ふを冷奴(ひやっこ)といひ。煮(にやっこ)て食ふを煮奴といふ。

やつで　八手(名)　灌木の名。葉羽團扇の如く。冬白き花咲くもの。●一名天狗柴。

やつあし　八足(名)　八足机の略。

やつあしづくゑ　八足机(名)　四本づゝ兩方に足の附きたる机。多く神事に用ふるもの。

やつざき　八割(名)　人體をばら〳〵に切り裂く事。

やつざ　(名)　弓に矢をつがふ事。(著聞)

やつざばや　(名)　矢を續け射る樣の早き事。△(形)—やつざばやの。(副)—矢つぎばやに。

やつめうなぎ　八目鰻(名)　鰻の一種。眼の下に七つの星ありて目のやうに見ゆるもの。

やつめさす　(枕)　出雲(國の名)の枕詞。やくもたつの轉。(記)

やつもさす　(枕)　やつめさすに同じ。

やつもさすぶり　八裳刺振(名)　上古雅樂寮の歌曲の名。(續紀)

やつす　(他動四段)　やつれしむる。●やつるゝやうに

する。

やね 屋根(名) 家の最上部にて雨露日光を防ぐ爲めに葺き覆ひたるところ。

やねいた 屋根板(名) 家根葺く板。

やねや 屋根屋(名) 屋根葺に同じ。

やねぶね 屋根船(名) 船の一種。屋形船に同じ。

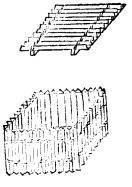
やねふき 屋根葺(名) 屋根を葺くを業とする人。

やな 梁(名) 川に杭を打ち並べて水を渡き魚を捕るやうに作りたる處。

やな (感) やにな重れていへる感嘆の詞。○「おもしろのありさまやな」

やないば (名) 柳筥に同じ。

やないばこ 柳筥(名) 〔一〕柳の枝にて作れる箱。●柳行李。(上古)〔二〕柳の木を廣さ五分程に三角に削り。いくつも寄せ並べて紙よりにて編み作れる箱。(中古)〔圖〕〔三〕中古の柳筥の蓋に足を少し高く附けたる奩。冠、烏帽子、經文、書物、硯、筆墨など載するもの。(近古)



やなり 屋鳴(名) 家の震動して鳴り響く事。

やながはなべ 柳川鍋(名) 土鰌鍋の異名。

やなぐひィ 胡籙(名) 武具の名。矢を盛りて脊負ふもの。……平胡籙、壺胡籙を見よ。

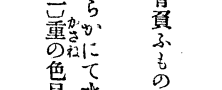
やなぎ 柳(名) 〔一〕木の名。葉細く枝やはらかにて水邊などに多くしだるゝもの。〔二〕重の色目の名。表白、裏青。

やなぎだる 柳樽(名) 祝に用ふる角樽。

やなぎのいとなみ (名) 柳營の文字の直譯。りうえいを見よ。(新續古今序)

やなぎごり 柳行李(名) 行李の一種。柳の枝にて編みたるもの。

やなぎさぶ (名) 白張烏帽子に用ふる皺。柳の葉の形に似たるもの。〔圖〕



やなぎさぶびのなりゑぼし (名) 揉烏帽子の一種。白張烏帽子の上を折り竹釘にてとめて用ふるもの。平士の所用。

やなみ 屋並(名) 家のならび。

やなみ 矢並(名) 矢のならび。

やなせ 梁瀬(名) 梁を設けたる瀬。

やなす　梁簀(名)　梁にて魚を捕るため竹を編みて作りたるもの。

やら　(後)　やらんの略。○「何とやら面白からず」

やら　(感)　あらに同じ。○「やらおもしろ」

やらい　矢來(名)　竹を×形に組み合はせたる垣。

やらん　(後)　疑のやと推量のらんとを合はせたる詞。●にかあらん。○「是はいかなる人やらん」

やらふ　(他動四段)　遣る。●追ひやる。●放逐する。

やらやら　(感)　やらを重れたる詞。●あら〳〵。○狂言「やら〳〵めでたや〳〵な」

やらず　(助動ズヌ子の活)　充分に其働の終らぬをいふ。●しまはぬ。○新拾遺「山櫻さきやらぬまは暮毎に待たでぞ見ける春の夜の月」

やむ　病(他動四段)　患ふる。……病氣を憂ふる。●思ひ惱む。

やむ　病(自動四段)　病に罹る。●惱む。●煩ふ。

やむ　止。已(自動四段)　とゞまる。●中途にて絶ゆる。●中止する。

やむ　止。罷(他動下二段)　〔一〕とゞまらする。〔二〕官職を免ずる。

やむをえず　(副)　止むに止まれず。●せんかたなく。

やむなく　(副)　止むを得ず。

やんや　(感)　喝采する時の聲。現今行はるゝヒーヤヒーヤの類。

やんま　(名)　虫の名。蜻蛉の一種。

やんごとなし　(形。形狀言ク活)　〔一〕止みがたし。●のがれがたし。●よんどころなし。○後撰「遠き處にまかりける道よりやんごとなき事によりて京へ人つかはしけるついでに」〔二〕優れて居る。●尋常ならぬ。○今昔「萬の事やんごとなかりけり。中にも管絃の道になん極まりたりける」〔三〕貴し。○「やんごとなき方々」

やもめ　寡(名)　やもめに同じ。(和名抄)

やうち　屋内(名)　かない。

やうつり　屋移(名)　轉宅。●轉居。●引越し。●わたまし。

やのね　矢根(名)　射て敵を刺さしむる爲め矢の下端に附けたるもの。●鏃。

やのねいし　矢根石(名)　矢の根の形してしば〳〵土中より掘り出ださるゝ一種の石。

やく　役(名)　つとめ。●官。●職。

やく 譯(名) 和譯。●飜譯。

やく 厄(名) 〔一〕災難。●危難。〔二〕厄年。

やく 約(名) 〔一〕約束。〔二〕約音。

やく 燒(他動四段) 〔一〕燃やす。●あぶる。●焦がす。〔二〕嫉妬する。

やく 燒(自動下二段) 燃ゆる。●焦げる。

やぐ 夜具(名) 〔一〕臥床に用ふる蒲團類の總名。〔二〕特には夜着。

やくゐん 役員(名) 役人。

やくろう 藥籠(名) 醫師の携ふる藥箱。

やくば 役場(名) 〔一〕役所。〔二〕特には町村などの公務を扱ふ所。又は公證人などの事務所。

やくはらひィ 厄拂(名) 〔一〕災厄を拂ひ去る事。〔二〕大晦日、節分などの夜其年の厄を拂ふ文句を唱へて人の門に立つ一種の乞食。

やぐばえ (名) 彌木榮(いやこばえ)の意。◎木のいよ〳〵榮え茂る事。(祝詞式)

やくにん 役人(名) 役目を持つ人。●官人。●有司。●官吏。●官員。

やくと (副) 役目として。●わざ〳〵。●專ら。●專門に。○宇治「東の人の狩といふ事をのみやくとして」「水飯をやくとすとも」

やくどし 厄年(名) 陰陽家の言より出でゝ人の生涯の內災難に罹かると豫め定まりたりといふ年齡。すなはち男は二十五、四十二、六十一。女は十九、三十三、三十七。

やくぢゃうチョウ 約定(名) 約束して定むる事△(動)—約定す。

やくれうリョウ 役料(名) 役目に對する給料。●俸給。

やぐるま 矢車(名) 周りに矢を並べて附けたる車。又その形の紋。〔圖〕

やくおとし 厄落(名) 厄難を拂ひ落す事。

やくおん 約音(名) 語學上の詞。二音を合して一音にする事。「かきあげ」をつゞめて「かゝげ」となし、「雪さえ」をつゞめて「雪げ」となすの類。

やくわゐ 夜會(名) 夜中の集會。●夜中の饗應。

やぐわい 野外(名) 野。●野邊。

やくわん 藥鑵(名) 湯を煮る器。眞鍮、銅などにて造りたるもの。●湯沸し。

やくッか 藥價(名) 藥の代金。●藥禮。

やくッかい 厄介(名)　〔一〕世話。●面倒。●手數。△(形)—厄介なる(副)—厄介に。〔二〕同居して戸主の世話を受くる身分。●居候。●食客。

やくがひィ 夜久貝(名)　〔一〕貝の名。螺の類。〔二〕夜久貝にて作れる盃。(雅)

やくたいし 藥袋紙(名)　紙の名。藥を包むに用ふる茶色の厚きもの。

やくれい 藥禮(名)　藥價。●藥代。

やくそう 役僧(名)　〔一〕其役に當たりたる僧。〔二〕寺の事務を掌る僧。

やくさ゛う 藥草(名)　藥の材料の草。

やくさッう 役送(名)　天皇の供御など甲より乙へと順々に送り傳へて運ぶ事。

やくさッうゆほん 藥草喩品(名)　法華經の卷の名。

やくそく 約束(名)　ちぎり。●ちかひ。●言ひかはして●約條。

やくなん 厄難(名)　厄に同じ。災難。

やくなし 益無(形。形狀言ク活)　むえきである。●かひなし。(雅)

やぐら 櫓。矢倉(名)　〔一〕城門又は城壁の上に作りたる樓。●城樓。〔二〕相撲、芝居等の興行に人寄せの太鼓をうつ高き所〔三〕巨燭の上に置きて蒲團を支ふるもの。八座官(名)　參議の異名。—ばちざに同じ。(後拾遺序)

やくらのつかさ 藥園(名)　藥用植物を栽培する所。

やくゑん (名)　無益。●いたづら。

やくざい 藥劑(名)　くすり。

やくさむ (自動四段)　病む。●惱む。(紀)

やくぎ 役儀(名)　役目。

やくめ 役目(名)　役。●職分。

やくみ 藥味(名)　食品に添へて食ふ香料。辛子、生薑、胡椒、山椒、陳皮、山葵、大根おろしの類。

やくしゃ 役者(名)　〔一〕其役に當たる人。〔二〕能樂芝居などの演者。

やくしゅ 藥種(名)　藥の材料。●藥品。

やくび 厄日(名)　厄年の如く一月の內にて災厄のあるべきと定まりたる日。

やくびゃうヒョウ 疫病(名)　流行病。●さきのけ。●えやみ。●時疫。

やくもたつ 八雲立(枕)　多くの雲が立つの意なれば。同じ詞を重ねて出雲(國の名)に掛けたる枕

詞。

やくもごと
やくもさす
やくせき

八雲琴(名)　琴の一種。二絃にて彈くもの。
八雲刺(枕)　やくもたつに同じ。
藥石(名)　藥と針治と。……古は石を以て針となしたる事ありし故に云ふ。

やくす

約(他動サ變)　〔一〕約束する。〔二〕つゞめる。〔三〕約音にする。
譯(他動サ變)　〔一〕俗語にうつす。〔二〕國語にうつす。❷反譯する。

やくす

やや
やや

(名)　赤兒。
稍(副)　やうく。●そろく。❷比較して少しは。
(感)　呼び掛くる聲。●やよ。●やい。

やや
ややまし

(形。形狀言ク活)　心惱まし。❷惱まし。(雅)

ややもせば

(副)　どうかしたら。❷事によったら。●ともせば。○源氏「やゝもせば消えを爭ふ露の世に後れ先だつ程經ずもがな」

ややもすれば

(副)　どうかすると。❷事によれば。●ともすれば。

やま

山(名)　〔一〕地上に高まりて木などの生ひたるところ。〔二〕平安京にては特に比叡山の稱。〔三〕山鉾。

やまゐ
やまゐ
やまひ
やまいぬ
やまひだかし

山井(名)　山の井。
山藍(名)　やまあゐの略。(歌詞)
病(名)　病氣。❷疾病。
山犬(名)　獸の名。狼の類。
病高(形。形狀言ク活)　病の募りて仰山になる。(空穗)

やまばと
やまばといろ

山鳩(名)　鳩の一種。青鳩。
山鳩色(名)　染色の名。黃の勝ちたる綠色。天皇の御袍などに用ふるもの。❷麴塵。

やまばち

山蜂(名)　蜂の一種。山中に巢を營む大なるもの。

やまはんのき
やまばやし

山榛(名)　木の名。榛の一種。
山林(名)　山中の林。……隱者の世を遯るゝ處。○空穗「此事ゆるされずは山林にまじりておほやけにも仕う奉らじ」

やまほとゝぎす
やまほふし
やまぼこ

山時鳥(名)　時鳥に同じ。(歌詞)
山法師(名)　比叡山の僧。
山鉾(名)　京都の祇園祭などに出づる山車の類。山の上に鉾を飾り立てたるもの。❷山。

やまべ　山邊(名)　山のほとり。

やまとにしき　大和錦(名)　和製の錦。……唐錦に對して。

やまとぢ　大和綴(名)　製本の一法。多くの絹糸にて二處綴ぢ其糸の端を結び合はせて餘し置くやうにしたるもの。又は西洋綴の如く折目に穴を明けて綴ぢたるもあり。

やまどり　山鶏(名)　鳥の名。形は雉に似て大なるもの。

やまとだましひィ　大和魂(名)　日本人特有の魂。すなはち忠君愛國心の類。

やまとなべ　大和鍋(名)　昔し大和の國の名産なりし鍋。

やまとうた　大和歌(名)　日本の歌。(参)和歌。

やまとうつぼ　大和靫(名)　竹又は木にて造りたる靫。……毛皮製のものと區別していふ。

やまとまひィ　大和舞(名)　神樂の一種。古今童蒙抄に曰く「大和舞といふは大和の國より出來する舞なり。これによりて葛城山とよめり。十二月の鎮魂祭。大嘗會の辰日の節會。大和舞を奏す。琴引歌人等あり。諸社の祭にも此舞を舞ふ」

やまとまんざい　大和萬歳(名)　年の始に大和地方より出づる萬歳。昔し京都には大和より出で。江戸には參河より出づるを嘉例とせり。

やまとぶえ　大和笛(名)　神樂笛の一名。

やまとごと　大和琴(名)　和琴(わごん)の一名。

やまとことば　大和詞(名)　〔一〕日本語。(参)日本文。〔二〕雅言。(参)雅文。

やまとことのは　大和言葉(名)　やまとことばに同じ。

やまとごころ　大和心(名)　〔一〕大和魂。(参)國粹心。〔二〕我國の學問。

やまとゑ　大和繪(名)　我國の畫風。土佐家、宅磨家、等の如き支那ならぬ諸派。

やまとしまね　大和島根(名)　我國の異名。

やまともじ　大和文字(名)　假名文字。

やまぢ　山路(名)　やまみち。

やまを　山緒(名)　鷹に捕らせたる鳥を柴に結ひ付くる紐。〇頼政集「御狩する野もせに雪の降りぬれば山緒にたゝん葛だになし」

やまおろし　山颪(名)　山より吹きおろす風。

やまをとこ　山男(名)　山中に住むといふ男性の妖怪。

やまわけごろも 山分衣(名) 山を分け行く時の衣。

やまが 山家(名) 山里。

やまかひぃ 山峽(名) 山の間。(萬葉)

やまかはゥ 山川(名) 山と川と。

やまがはゥ 山川(名) 山中の川。

やまかがち (名) 大蛇。●うばゥみ。(和名抄)

やまがた 山縣(名) 山に作れる畑。(記)

やまがた 山形(名) 山の形を畫がきたるもの。●へ又はべの形の目印。

やまがたつく (自動四段) 山の傍に接する。●山の方による。○風雅「ますらをが山がたつきて住む庵のそともに渡す杉の丸橋」

やまがたな 山刀(名) 刀の一種。樵夫獵師などの帶ぶるもの。

やまがつ 山賤(名) 山里人。●樵夫。

やまかづら 山鬘(名) (一)山中の草葉を鬘の飾に懸くる事。●神樂する時。眞拆の葛などにて頭を結ぶ事。(二)山の端に懸かる雲。●夜の明方に棚引く山の雲。

やまがら 山雀(名) 小鳥の名。人に飼ひ馴らされて種々の藝をなすもの。

やまがらめ 山雀女(名) 鳥の名。山雀に同じ。(拾遺)

やまがらす 山鴉(名) 山に住む鴉。

やまかぐら 山神樂(名) 山中の社にて奏する神樂。

やまかげ 山陰(名) 山下。●麓。

やまかご 山駕籠(名) 駕籠の一種。山坂などに用ふる手輕なるもの。

やまだ 山田(名) 山中に作れる田。

やまだち 山立(名) 山中に立ちて往來の人の金錢衣類など奪ふ人。●山賊。

やまたちばな 山橘(名) 木の名。藪柑子の古名。

やまたわ 山曲(名) 山の凸字形を爲したる處。(記)

やまたづ (名) 木工の具。手斧。

やまたづの (枕) 手斧は使用する時。及を我方に向くるものなれば迎ふに掛けたる詞。○萬葉「君が行きけながくなりぬ山たづの迎へかゆかん待ちには待たじ」

やまづと 山苞。山土産(名) 山よりのみやげ。

やまつとり (名) やまどりに同じ。

やまつかと 山塚と(名) 山の如く塚の如く堆く。○撰集抄「たとひ七珍萬寶を山塚と積めりとも」

やまつなみ　山津浪（名）　山崩。

やまつみ　山祇（名）　山を司る神の名。●山神。

やまなし　山梨（名）　木の名。梨子に似て小さき實を結ぶもの。

やまもふ　（自動四段）　病むに同じ。（雅）

やまうば　山姥（名）　山に住むといふ鬼女。

やまのゐ　山井（名）　山中の井戸。

やまのは　山端（名）　山の頂の端。

やまのいも　山芋。薯蕷（名）　草の名。蔓生にして根を食用とするもの。多くとろゝ汁などに作る。

やまのとね　山刀禰（名）　山賊。（兼盛集）

やまのかみ　山神（名）　〔一〕山を司る神。●山靈。●山祇。〔二〕妻の異名。

やまのうつばり　（名）　山梁の直譯。◎雉子の異名。（散木）

やまぐち　山口（名）　山の入口。

やまくぢら　山鯨（名）　猪肉の異名。

やまぐは　山桑（名）　桑の一種。山中に自生するもの。

やままゆ　山繭（名）　虫の名。山野に自生して大なる繭を造る蠶。最良の糸を吐くもの。

やままゆ　山眉（名）　遠山の形に似たる美人の眉。

やまふところ　山懐（名）　山に圍まれたるところ。●谷間。

やまふぶき　歇冬（名）　山蕗に同じ。（和名抄）

やまふき　山蕗。歇冬（名）　蕗の一種。つはぶき。

やまぶき　山吹。歇冬（名）　〔一〕灌木の名。莖は地上より叢生して暮春の頃。黄色の花咲くもの。〔二〕染色の名。薄黄色。〔三〕黄金の異名。

やまぶみ　山蹈（名）　山中を行く事。●山あるき。

やまぶし　山伏（名）　〔一〕遯世出家して山に起臥する事。又は其人。○源氏「山伏の僻耳に松風を聞きいだし侍るにやあらん」〔二〕熊野、葛城、大峰など險しき山を經めぐりて佛道の修業をしあるく人。是に二種あり。一は天台宗より出でゝ聖護院門主に屬するもの。又一は眞言宗より出でゝ醍醐寺三寶院門主に屬するもの是なり。蓄髮にして篠懸を掛くるは僧俗に通ずる姿なりといふ。●修驗者。●客僧。

やまごえ　山越（名）　〔一〕山を越ゆる事。〔二〕山を越ゆる道。

やまごし　山越（名）　山を越す事。○萬葉「山ごしの風」

やまごもり 山籠(名) 遯世出家などして山に籠もる事。

やまて 山手(名) 山の方。●山に近き土地。

やまでら 山寺(名) 山中の寺。

やまあゐ 山藍(名) 〔一〕藍の一種。山中に自生するもの。古へ小忌衣などを摺るに用ひたるもの。〔二〕山藍もて摺れる衣。

やまあひィ 山間(名) 山と山との間。●谷間。

やまあゐのそで 山藍袖(名) 山藍もて摺れる衣の袖。●小忌衣の袖。○新千載「そのまゝに霜ふりはて、忍ぶかな豐の明の山藍の袖」

やまあらし 山嵐(名) 山より吹く風。

やまざと 山里(名) 山中の人家。

やまさち 山幸(名) 山にて獵し得たる鳥獸。

やまざくら 山櫻(名) 櫻の一種。花は一重にして白く。花と同時に葉の出づるもの。

やまざくらど 山櫻戸(名) 櫻の木にて作りたる山家の戸。

やまき 八卷(名) 法華經八卷。●八軸。○新六帖「あひがたき八卷の法の花の紐結ぶ契りは空しからじを」

やまぎ 山本(名) 山に生ひたる木。

やまぎ 山氣(名) 當たるか當たらぬか無鐵砲に利を得んと企つる心。

やまぎはゥ 山際(名) 〔一〕山の端と空との堺の處。○源氏「夕日はなやかにさして山際の梢あらはなるに」〔二〕山と平地との堺の處。●山下。

やまめぐり 山廻(名) 山々を行き廻る事。

やまみち 山道(名) 山中の道路。

やまみづ 山水(名) 山中を流るゝ水。

やまし 山師(名) 〔一〕鑛山、山林などの山の事業に關する人。〔二〕山氣のある人。

やまし 疚(形)。形狀言シク活 良心に恥づるやうである。●心なやまし。

やましろ 山城(名) 催馬樂の曲名。

やました 山下(名) 山に接したる平地。●麓。

やましたうみ 山下海(名) 山の麓にある海。(新續古今)

やましたみづ 山下水(名) 山の下を流るゝ水。●谷川。

やまびと (名) 山邊の古言。(萬葉)

山人(名) 〔一〕山里人。●山賤。●樵夫。〔二〕仙人。

やまびこ　山彦(名)　反響。●こだま。

やまびめ　山姫(名)　山を司る女神。……立田山の立田姫。佐保山の佐保姫の類。

やまもと　山本(名)　麓。●山下。

やまもり　山守(名)　山を守る人。●山番。

やまもり　山盛(副)　器に溢るゝ程物を盛る事。●高盛。△(形)—山盛の。(副)—山盛に。

やまもも　楊梅(名)　木の名。實は覆盆子に似て味甘く皮は剝がれて黄色の染汁となるもの。

やますげ　山菅(名)　木の名。麥門冬。

やますげの　山菅の(枕)　〔一〕實の枕詞。山菅には實のなるもの故。〔二〕みだるの枕詞。葉の蔓くて亂るゝもの故。〔三〕そがひの枕詞。山菅の葉はかなたこなたに亂れ靡きて正しく相向はざるもの故。

やまずみ　山住(名)　山中の住居。●山中に住む人。

やけ　(名)　失望不平などの時にする亂暴。

やけばた　燒畑(名)　燒けたる畑。(萬葉)

やけど　(名)　熱きものに觸れて皮膚を傷くる事。

やけはら　燒原(名)　燒けたる野原。

やげん　藥研(名)　藥品など粉末にする舟形の器。

やけの　燒野(名)　燒けたる野。

やけふ　燒生(名)　燒野に草の生ひたるところ。

やぶ　藪(名)　〔一〕草木の多く生ひ茂りたる處。〔二〕竹の林。

やぶいり　藪入(名)　正月と七月の十六日にする奉公人の宿下。

やぶいしゃ　藪醫者(名)　下手の醫師。

やぶにらみ　(名)　睛を正しくして見る事の出來ぬ一種の眼。●ひがら。●斜視眼。

やぶる　破(他動四段)　こぼつ。●こはす。●碎く。●崩す。●亂す。

やぶる　破(自動下二段)　こはるる。●碎くる。●亂るゝ。●崩るゝ。

やぶん　夜分(名)　夜。●夜中。

やぶかうじ　藪柑子(名)　灌木の名。冬の頃赤く小さき實を結ぶもの。一月の飾物などに用ふ。●山橘。

やぶさか　(名)　吝嗇。●しわんぼう。●けち。△(形)—やぶさかなる。(副)—やぶさかに。

やぶさめ　流鏑馬(名)　騎射の一法。馬を馳せながら鏑矢にて的を射る式。

やふみ 矢文(名) 矢に結び付けて敵の陣に送る手紙。

やごろ 矢頃(名) 矢を放つによき加減の距離。

やごとなし (形。形狀言ク活) やんごとなしに同じ。(雅)

やごたへ 矢答(名) 弓を射て矢の當たりたる時に射られたる人の發する叫び。

やごつなし (形。形狀言ク活) やごとなしに同じ。(雅)

やかう 夜行(名) 夜道を行く事。●夜あるき。

やがう 屋號(名) 商家にて何屋といふ稱號。

やがふ 野合(名) 正式を蹈まずして婚姻する事。●くっつきあひ。●ころびあひ。△(動)—野合す。

やこゑ 八聲(名) 曉に度々鳴く鷄の聲。

やごゑ (名) やといふ掛聲。○「や聲を出だして」

やこゑのとり 八聲の鳥(名) 曉に數聲鳴く鷄。

やへ 八重(名) 二重以上の重なり。●多くの重なり。

やへば 八重齒(名) 二重に生えたる齒。●添齒。●押齒。

やへだつ 八重立(自動四段) 重なりて立つ。……雲などに云ふ。(雅)

やへたなぐも 八重棚雲(名) 重なりて棚引く雲。(記)

やへなり 綠豆(名) 八重生の意。◎豆の一種。小豆に似て幾度も實のるもの。

やへむぐら 八重葎(名) 葎の重なり合ひて茂りたる處。

やへぐも 八重雲(名) 重なりて立つ雲。

やへやへの (名) 最終の。●最末の。○大鏡「やへ〳〵の弟」

やへぶき 八重葺(名) 草などを重ねて屋根を葺く事。○後拾遺「津の國のこやとも人をいふべきにひまこそなけれ葺のやへぶき」

やへさかき 八重榊(名) 葉の多く茂りたる榊。(新續古今)

やへさく 八重咲(自動四段) 花の瓣の重なりて咲く。

やへざくら 八重櫻(名) 瓣の重なりて咲く櫻。

やへざく 八重菊(名) 瓣の重なりて咲く菊。

やへひがき 八重檜垣(名) 二重に作りたる檜垣。(新六帖)

やへすがき 八重筌垣(名) 二重に作りたる筌垣。(散木)

やあ (感) 〔一〕驚の聲。〔二〕呼び掛くる聲。○謠曲「やあいかにあれなるは佐野の源左衞門の尉常

世か」

やあはせ　矢合(名)　戰を始むる時敵味方相對して先づ互に矢を射る事。

やあやあ　(感)　やあを重ねたる詞。

やさい　野菜(名)　食品となるべき草の總名。多くは畑に作る菜大根の類。●青物。

やさをとこ　優男(名)　やさしき姿の男。●柔弱なる風の男。

やさか　八尺(名)(形)　物の丈の長き事。……さかを見よ。

やさかにのまがたま　八尺瓊勾玉(名)　三種神器の一つ。

やさかどり　八尺鳥(枕)　八尺ほどの長き息を衝く鳥といふ意にて水鳥をいふ。故に其如くの意にていきづくに掛けたる枕詞。○萬葉「沖にすも小鴨のもころやさかどり息づく妹を置きて來ぬかも」

やさかむ　(自動四段)　痩する。(紀)

やさかのなげき　八尺の嘆(名)　長き嘆息。(萬葉)

やさかのまがたま　八尺勾玉(名)　やさかにのまがたまに同じ。

やざま　矢間(名)　城、砦などにて矢を射出す爲めの小窓。

やさけび　矢叫(名)　戰場にて矢を射る時互に發する叫び。

やさき　矢先(矢)　〔一〕矢の根の尖りたる所。●鏃。〔二〕矢の飛び行く先。●矢面。

やさし　(形。形狀言ヨク活)　〔一〕耻かし。○古今「何をして身のいたづらに老いにけん年の愚はん事ぞやさしき」〔二〕優美である。●かわゆらし。●殊勝である。〔三〕柔順である。●溫和である。

やさすかり　八道行成(名)　古代遊戲の名。今も行はるゝ十六むさしの類。(和名抄)

やき　燒(名)　〔一〕燒く事。〔二〕及の燒き方。

やぎ　山羊(名)　獸の名。羊の一種。

やきいひ　燒飯(名)　握り飯の燒きたるもの。

やきいん　燒印(名)　火に燒きて木などに押すやうに作りたる金屬の印。

やきいし　燒石(名)　溫石(おんじやく)に同じ。(大鏡)

やきいも　燒芋(名)　薩摩芋の燒きたるもの。

やきば　燒刃(名)　燒きて鍛ひたる刃物。

やきば 焼場(名) 火葬場。●茶毘所。

やきばん 焼判(名) 焼印に同じ。

やきはまぐり 焼蛤(名) 食品の名。貝の儘松葉の火にて炙りたる蛤。

やきどうふ 焼豆腐(名) 食品の名。豆腐を切りて炙りたるもの。

やきがね 焼金(名) 〔一〕火にて焼きたる金屬。〔二〕焼印。

やきがま 焼鎌(名) 焼刃の鎌。(祝詞式)

やぎゃうぎょう 夜行(名) 夜中に出であるく事。●やかう。

やきだち 焼太刀(名) 焼刃の太刀。(萬葉)

やきだちの 焼太刀の(枕) 〔一〕焼太刀の利きといふとの一音に掛けたる枕詞。○萬葉「焼太刀のとごいるもあれは」〔二〕太刀は武士の身を放たず帶ふるものなれば人身の邊に着くといふ意に掛けたる枕詞。○萬葉「絶ゆといはゞわびしみせむと焼太刀のへつかふ事は辛しや吾君」

やきつぎ 焼接(名) 陶器の碎けたるを藥にて接ぎ竈に入れて焼き固むる一法。

やきうち 焼討(名) 焼き立てゝ敵を攻撃する事。●火攻。

やきぐり 焼栗(名) 炙りたる栗の實。

やきふ 焼麩(名) 麩の一種。生麩に對して炙りたるをいふ。

やきふで 焼筆(名) 畫工の具。桐の木片を焼きて下畫を畫くに用ふるもの。

やきごめ 焼米(名) 食品の名。粳米を焼き臼にて搗きて外皮を去りたるもの。

やきゑ 焼繪(名) 焼金にて木、竹などに焼き付けたる畫。(盛衰)

やきざかな 焼肴(名) 食品の名。火に炙りたる魚。

やきしほ 焼鹽(名) 食鹽を更に焼きて精製したるもの。

やきもち 焼餅(名) 〔一〕炙りたる大福餅。〔二〕嫉妬。●憎氣。

やきもの 焼物(名) 〔一〕陶器、磁器の總名。●瀬戸物。〔二〕料理の詞。=焼肴に同じ。

やいう 野遊(名) 野あそび。

やいう 夜遊(名) 夜中に行ふ管絃舞樂の遊。(謠曲)

やめ 矢目(名) 矢の立ちたる痕。●矢の徹りたる穴。

やみ 闇(名) 〔一〕くらき夜。●あんや。〔二〕くらき處。

やみうち　闇討(名)　むやみに討ち掛かる事。●不意討。

やみやみ　(副)　闇の如くに。(又)—やみ〳〵と。○謠曲「やみ〳〵と生捕られぬ」

やみあがり　病上(名)　病の癒ゆたる時。●病後。

やし　矢師(名)　矢を造る職工。

やし　椰子(名)　熱帶地方の木の名。棕櫚に似たるもの。

やしろ　社(名)　神を祭るための建物。

やしはご　玄孫(名)　曾孫の子。●やしゃらまご。

やじり　鏃(名)　矢の根。

やじるし　矢印(名)　軍陣に用ふる矢に書き付けて置く持主の姓名。

やしほ　八入(名)　染色にいふ詞。幾度も染めて色を濃くする事。

やしほぢ　八潮路(名)　多くの潮の流れ來る路。(祝詞式)

やしほをりのさけ　八入折酒(名)　幾度も釀し釀して強き酒。(記)

やしおや　養親(名)　養父母。

やしよく　夜食(名)　夜に入りてする食事。●夕飲。

やしよく　夜色(名)　夜の景色。

やしなひ　養(名)　(一)養ふ事。●養育。●培養。(二)身體の營養に適する事。●滋養。

やしなふ　養(他動四段)　(一)そだつる。●衣食住を給與する。●其物の生活の出來るやうに保護する。(二)健康を保つやうにする。

やしん　野心(名)　大望心。●謀反心。

やじん　野人(名)　田舍人。

やしゃ　夜叉(名)　强暴なる鬼神。●惡鬼。(佛教)

やしゃらまご　(名)　玄孫。

やしゃびしゃく　夜叉柄杓(名)　木の名。深山の喬木に寄生するもの。

やしま　八洲(名)　我日本の古名。

やしまぐに　八洲國　やしまに同じ。

やしき　屋敷。邸(名)　(一)一構への地面。●邸。●宅地。(二)中等以上の人の邸宅。

やひ　野鄙(名)　田舍風。●下品。△(形)—野鄙なる。(副)—野鄙に。

やひらで　八開手(名)　神拜する時兩の掌を八つ拍つ事。

やひらで　八葉盤(名)　多くのひらで。……ひらでを見よ。

やびらき　矢開(名)　武家にて小兒初めて鳥獸を射たる

やもひ（名）時の祝儀。

やもり（名）病の轉。（散木）

やもり（名）屋守。家を守る人。●留守居。

やもり（名）守宮。虫の名。蜥蜴に似て手足に吸盤あり。古き壁などに住むもの。

やもた（名）鰻。妻を亡なひて獨身となりたる男。

やまふ（名）病に同じ。○續拾遺「やまふにわづらひけるが」

やもめ（名）寡。孀。〔一〕夫を亡なひて獨身になりたる女。●後家。〔二〕妻を亡なひて獨身になりたる男。●やもた。○空穗「師のぬし翁やもめにてつきなく覺ゆれば」蜻蛉「やもめ住みしたる男」

やもめがらす（名）孀烏。獨身の烏。夜半に起きて鳴く時の名。○夫木「にくかりしやもめ烏もうれしきは唯ひとり寐る曉の空」

やもめずみ（名）寡住。やもめになりて住む事。

やせい（名）野生。動物又は植物の山野に自然と生ずる事。

やせをとこ（名）瘦男。〔一〕瘦せたる男。〔二〕能面の名。

やせをんな（名）瘦女。〔一〕瘦せたる女。〔二〕能面の名。

やせがは（名）八瀨川。多くの瀨の川。（雅）

やせがまん（名）瘦我慢。堪へられぬ事を強ひて我慢する事。

やせん（名）野戰。野にてする合戰。

やぜん（名）夜前。昨夜。●よべ。●昨晩。

やせやせに（副）瘦々に。瘦せたる有樣。（雅）

やせさらぼふ（自動四段）骨の突出するまでに瘦する。●甚しく瘦する。（雅）

やす（名）魚扠。魚を捕る具。長き柄の先に鎗の身の三つ並びたる如きものを附けだるもの。

やす（自動下二段）瘦。瘠。肉の落ち細る。●細くなる。

やすい（名）安寢。落付きて寢る事。●安眠。

やすり（名）鑢。金屬を磨り減らすに用ふる具。鋼に目を立てゝ強く燒を入れたるもの

やすらに（副）やすらかにに同じ。●安く。（古）

やすらか（形）〔一〕安き有樣。〔二〕たやすき有樣。●穩か。……（形）—安らかなる。（副）—安らかに。

やすらふ（自動四段）〔一〕息ふ。●休む。〔二〕ためらふ。●躊躇する。

やすらけし（形。形狀言ク活）〔一〕安しに同じ。〔二〕たやすしに同じ。

やすむ 休(自動四段) 〔一〕息ふ。●休息する。〔二〕すべき勤に缺くる。●缺席する。●缺勤する。〔三〕寢る。

やすむ 休(他動下二段) 休ましむる。

やすんず 安(他動サ變) 安からしむる。●安置する。

やすんず 安(自動サ變) 安心する。●おちつく。

やすのかはら 安河(名) 天上にありと想像せし河。……天照大神天の岩戸隱の時および天孫降臨の時に八百萬神の會議せし處。

やすやす 安々(副) たやすく。●世話なしに。(又)—やす〳〵と。

やすまる (自動四段) おのづから休まるゝ。●休息する。●安心する。●おちつく。(雅)

やすまく 安幕(名) 休幕の意。◎雅樂の樂屋。(教訓抄)

やすめことば 休詞(名) やすめじに同じ。

やすめじ 休字(名) 語學上の詞。助辭の一辭。たすけことば。

やすみ 休(名) 〔一〕休む事。●休息。●休暇。〔二〕伊勢齋宮の忌詞。病氣。(延曆儀式帳)

やすみし 八隅知。安息知(枕) 我大君の枕詞。一說には四方四隅を知ろしめすの意。又一說には安く天下を見治め給ふの意。

やすみす (自動サ變) 帝位を踏む。●安く天下を統御する。○撰集抄「清涼紫宸の間にやすみし給ひて百官にいつかれさせ」

やすし 安(形。形狀言ク活) 〔一〕心の平和である。●安心すべくある。〔二〕價の高からぬ。〔三〕たやすし。●世話なし。●手輕し。